「上野の杜から（16）」

「 夏休みのラジオ体操♫ 」

朝の6時30分、ラジオから流れてくる軽快なピアノの伴奏で始まるNHKの「ラジオ体操」を知らない人は少ないでしょう。

国民の体力向上と健康の保持・増進を目的として一般向けの体操のためのラジオ番組、いわゆるラジオ体操が始まったのは、昭和3年（1928）ということです。

7月に入り、夏休みのシーズンとなりました。早起き会で朝露に濡れた木々や草花に囲まれて、公園や学校の運動場などでラジオ体操に親しんだ記憶をお持ちの方は多いと思います。

JR上野駅の公園口改札を出ると、右手側に国立西洋美術館、左手側に東京文化会館がすぐ目に入ります。少し進むと右手前方にユニークな姿の建物が目に入ります。建築家・黒川哲郎氏設計の通称デザイン交番です。

ここで立ち止まり、あたりを見回してください。すると、植え込みの中にブロンズのオブジェがあるのに気づかれるはずです。

このブロンズ像は、平成3年（1991）にラジオ体操制定50周年を記念して建立されたもので「ラジオ体操ひろば」と銘打たれ、東京郵政局の名で、こんな言葉が刻まれています。

「 この碑は　ラジオ体操ひろば　として永年にわたり多くの人達に親しまれている当地に
　ラジオ体操制定五十年を記念し　建立したものであります 」

文言は、まだ続くのですが、要は、いつでも、どこでも誰もが手軽にできるラジオ体操に親しみ、健康のために続けてゆきませんか、と呼びかけています。

ところで、このブロンズ像が意味するものはなにか。このブロンズ像の制作者は誰か。といった不明が残りますが、いつの日か解明されしだいご報告したいと思います。

新型コロナウイルス感染症によって、上野公園内における集会や催事は中止や延期を余儀なくされていましたが、ここにきてイベントのたぐいは復活。また、外国人観光客の姿も多く見受けられ、コロナ禍以前の賑わいを取り戻しつつあります。



このままの状況で推移しますと、あの懐かしい掛け声とメロディーにのって、夏の風物詩でもある上野公園における朝のラジオ体操も復活まちがいないかもしれません。

その際は、意外と知られていない50周年の記念碑をぜひご覧ください。

上野の山は、これからしばらくは蝉族に占領されてしまいますが、これも夏の風物詩というところでしょうか。